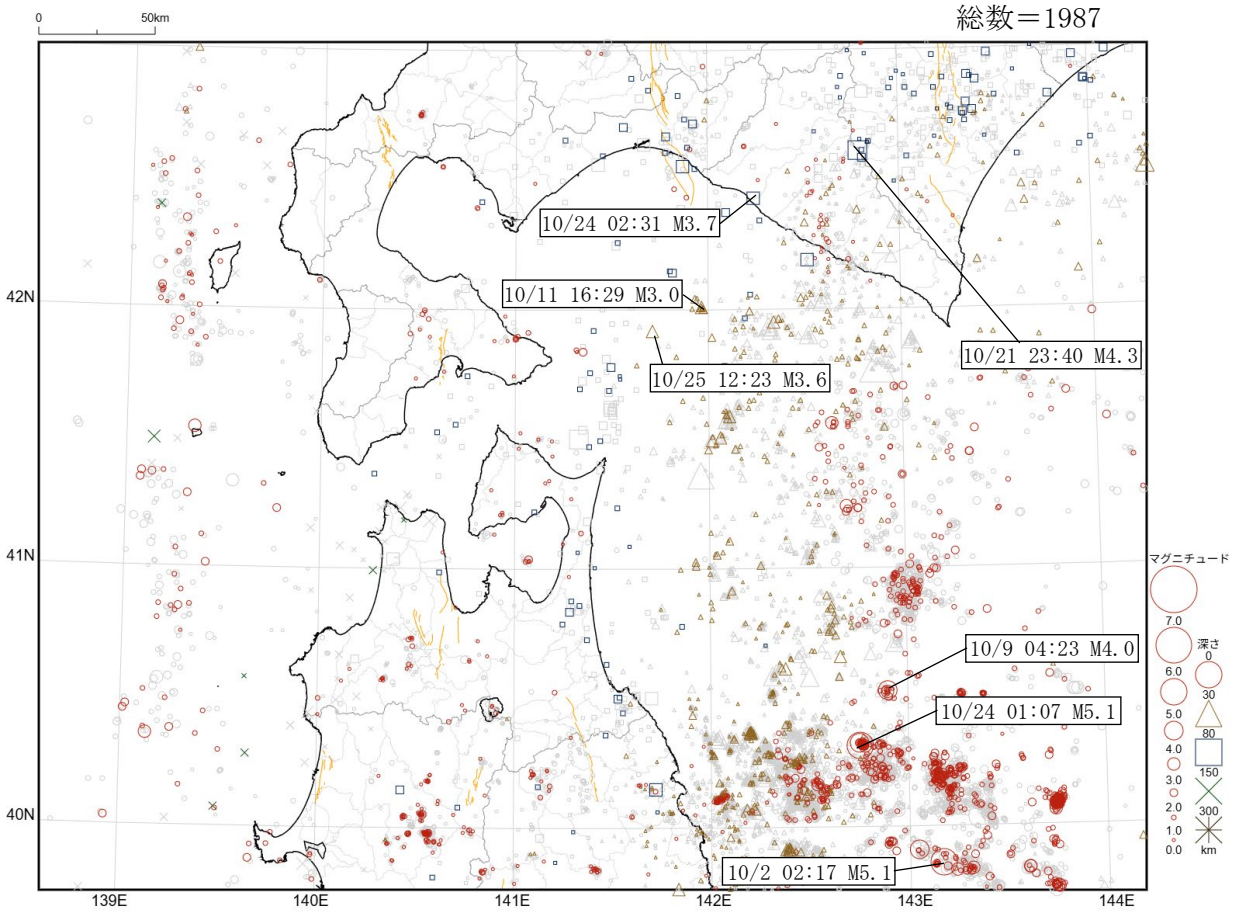
渡島・檜山地方の地震活動図

2026年10月

函館地方気象台

震央分布図



・図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
・過去の地震と比較するため、前３ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
・本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年10月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点において震度１以上を観測した地震は10回（９月は４回）ありました。主な地震は以下の通りです（詳細は「渡島・檜山地方で震度１以上を観測した地震の表」参照）。

16日12時35分、カムチャツカ半島付近の地震（M6.9、深さ135km、震央分布図の範囲外）により、函館市新浜町で震度１を観測しました。

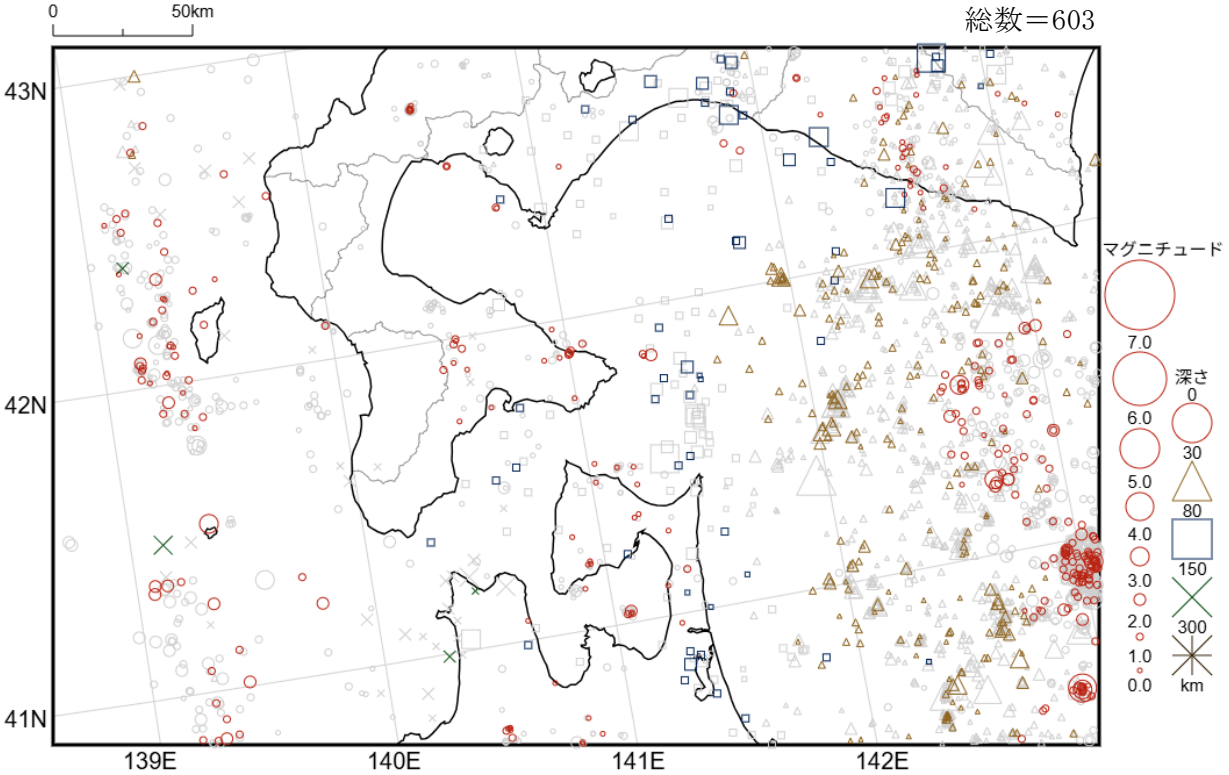
23日02時21分、北海道東方沖の地震（M4.9、深さ79km、震央分布図の範囲外）により、函館市新浜町で震度１を観測しました。

29日08時13分、釧路地方中南部の地震（M4.6、深さ122km、震央分布図の範囲外）により、函館市泊町、函館市新浜町で震度１を観測しました。

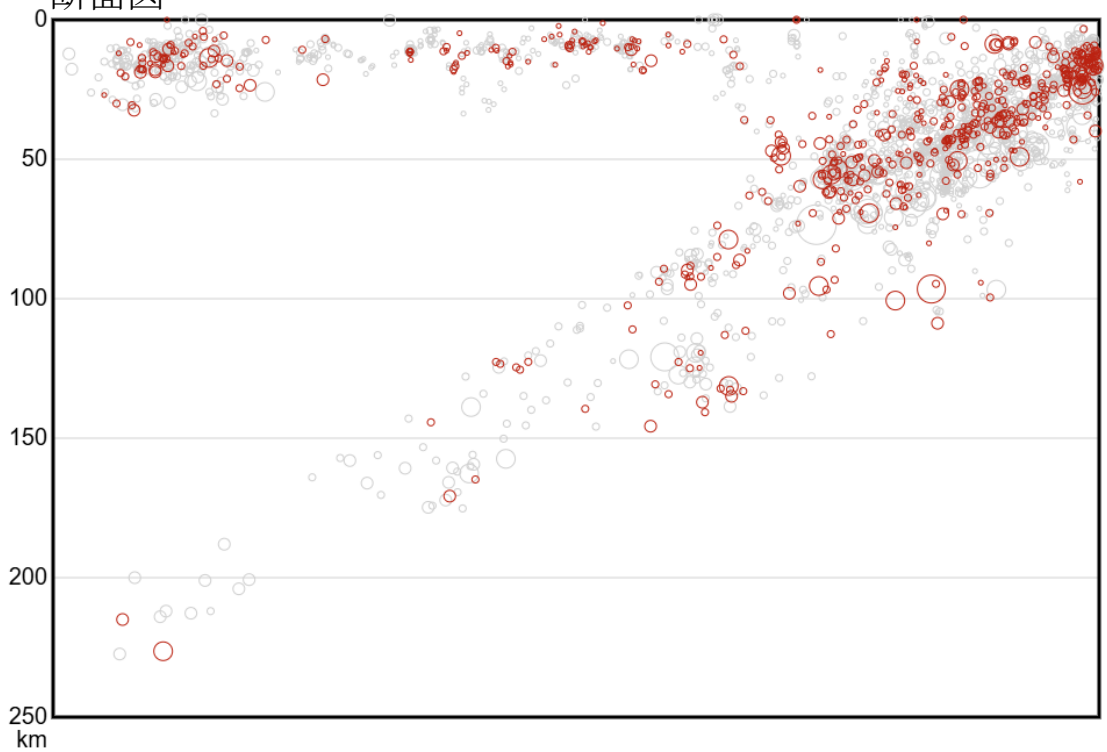
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/hakodate-c/statistics/earthquake-report.html
この資料に関する問い合わせ先　函館地方気象台　TEL　0138-46-2211

2026年10月

震央分布図



断面図

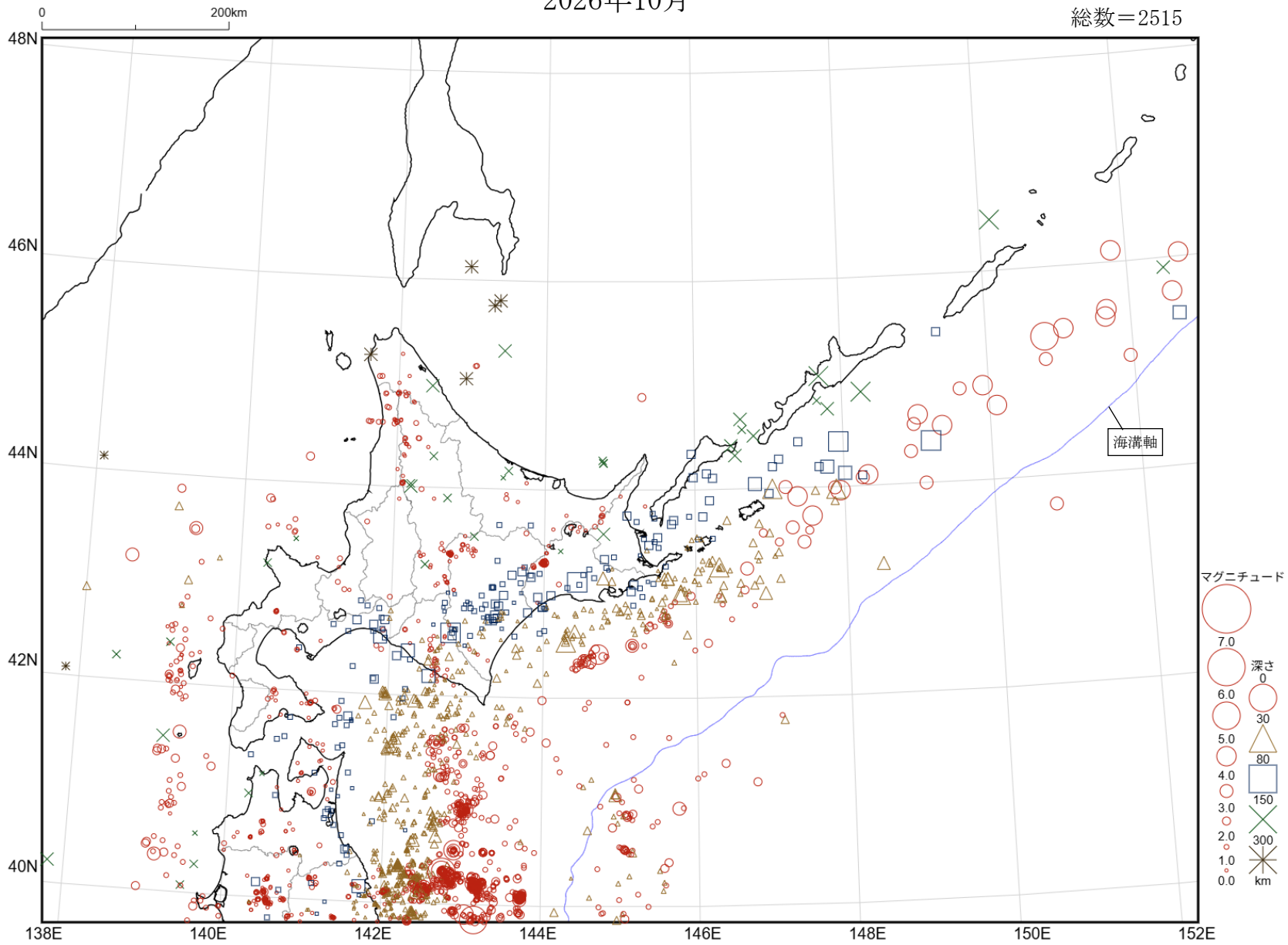


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年10月

総数＝2515



渡島・檜山地方で震度１以上を観測した地震の表
（2026年10月）

	年　月　日 地方	時　分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯（N）	東経（E）	深さ（ｋｍ）	規模（M）
1	2026年10月 2日 渡島地方	02時17分 震度１	三陸沖 函館市泊町＊(06)	39° 51.5′ N	143° 10.0′ E	18ｋｍ	M5.1
2	2026年10月 9日 渡島地方	04時23分 震度１	青森県東方沖 函館市泊町＊(05)	40° 31.5′ N	142° 53.8′ E	25ｋｍ	M4.0
3	2026年10月11日 渡島地方	16時29分 震度１	苫小牧沖 函館市泊町＊(05)	42° 00.5′ N	141° 57.8′ E	49ｋｍ	M3.0
4	2026年10月16日 渡島地方	12時35分 震度１	カムチャツカ半島付近 函館市新浜町＊(05)	51° 59.1′ N	157° 16.2′ E	135ｋｍ	M6.9
5	2026年10月21日 渡島地方	23時40分 震度１	日高地方中部 函館市泊町＊(09)　函館市新浜町＊(09)	42° 36.6′ N	142° 47.2′ E	97ｋｍ	M4.3
6	2026年10月23日 渡島地方	02時21分 震度１	北海道東方沖 函館市新浜町＊(07)	43° 59.8′ N	147° 02.0′ E	79ｋｍ	M4.9
7	2026年10月24日 渡島地方	01時07分 震度１	岩手県沖 函館市泊町＊(14)　函館市新浜町＊(10)	40° 18.8′ N	142° 45.2′ E	17ｋｍ	M5.1
8	2026年10月24日 渡島地方	02時31分 震度１	日高地方中部 函館市泊町＊(08)　函館市新浜町＊(09)　函館市川汲町＊(06)	42° 25.7′ N	142° 14.3′ E	95ｋｍ	M3.7
9	2026年10月25日 渡島地方	12時23分 震度１	苫小牧沖 函館市泊町＊(07)　函館市新浜町＊(06)	41° 55.0′ N	141° 42.5′ E	79ｋｍ	M3.6
10	2026年10月29日 渡島地方	08時13分 震度１	釧路地方中南部 函館市泊町＊(06)　函館市新浜町＊(10)	43° 06.9′ N	144° 26.1′ E	122ｋｍ	M4.6

＊のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
（　）内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

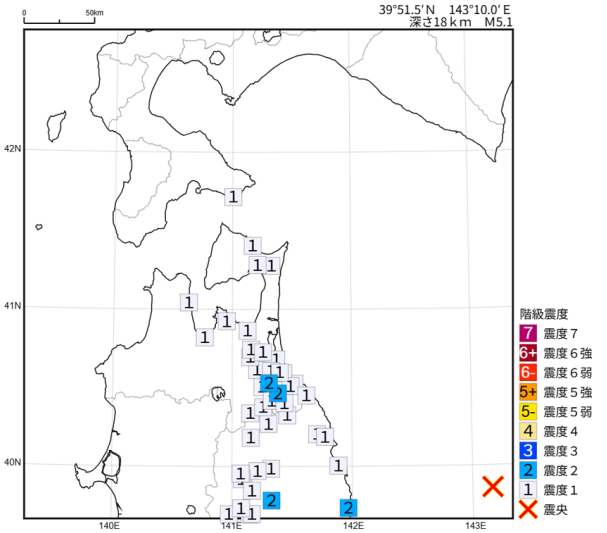
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	５弱	５強	６弱	６強	7

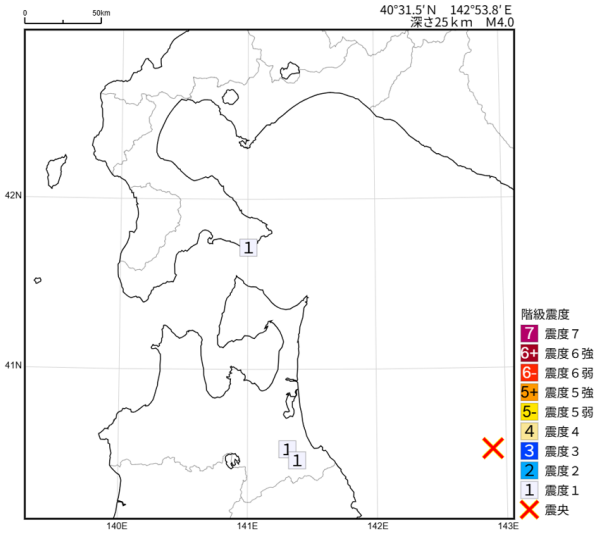
本資料の利用にあたって

・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

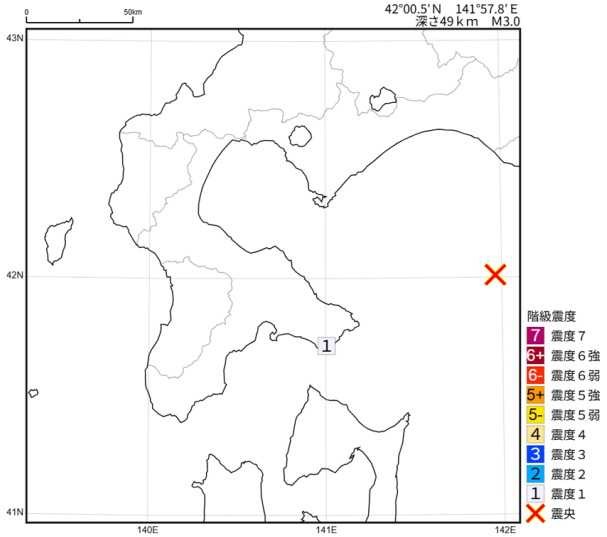
2026年10月 2日　02時17分　三陸沖の地震の震度分布図



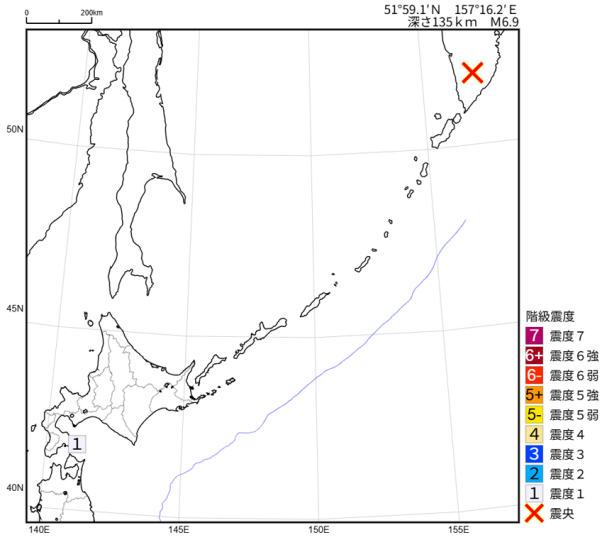
2026年10月 9日　04時23分　青森県東方沖の地震の震度分布図



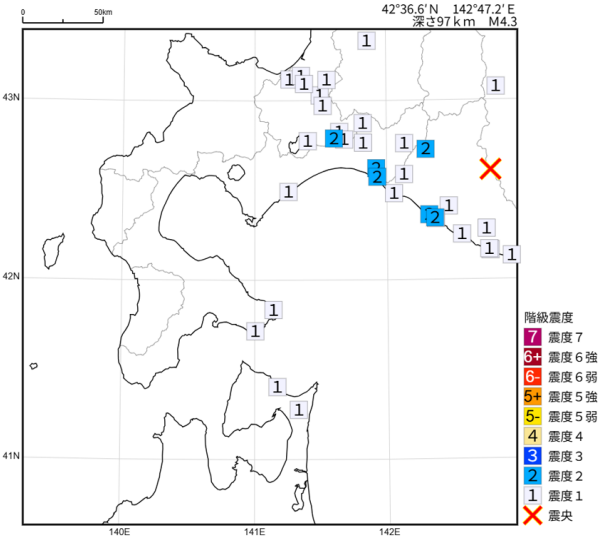
2026年10月11日　16時29分　苫小牧沖の地震の震度分布図



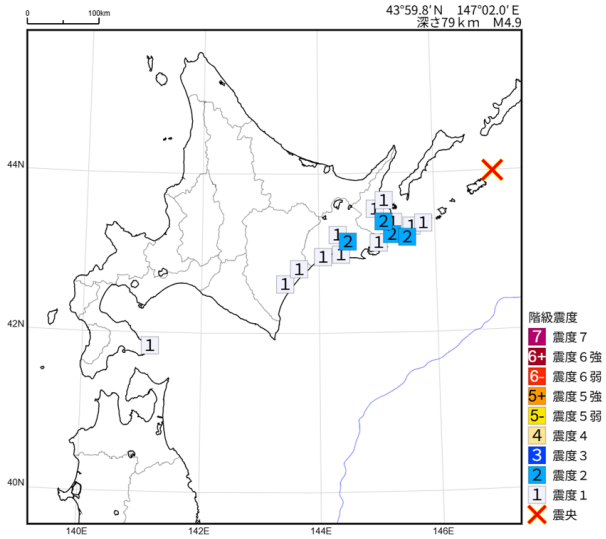
2026年10月16日　12時35分　カムチャツカ半島付近の地震の震度分布図



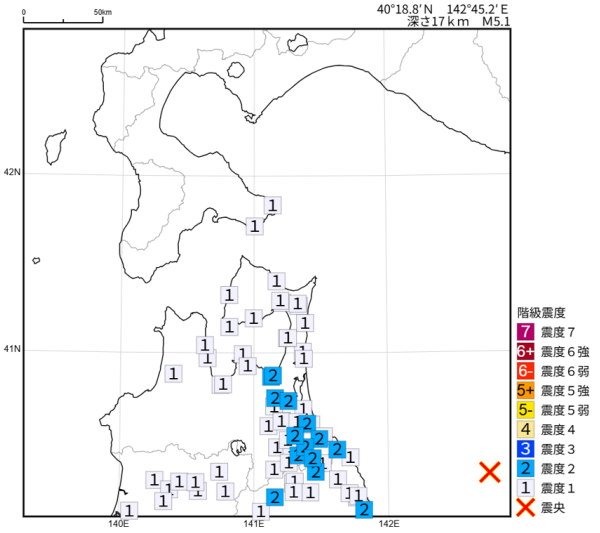
2026年10月21日　23時40分　日高地方中部の地震の震度分布図



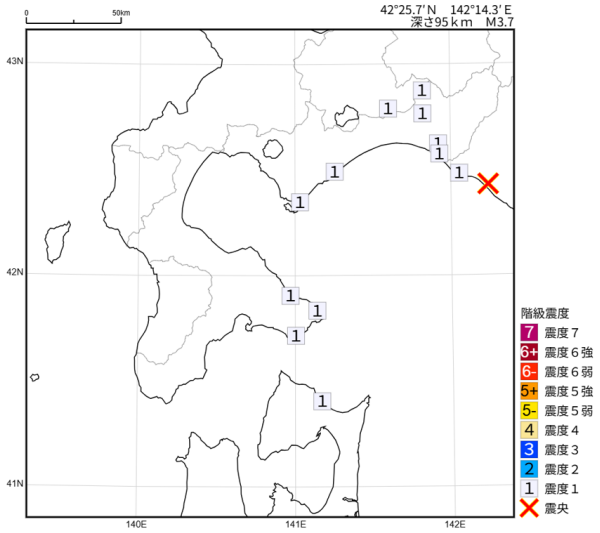
2026年10月23日　02時21分　北海道東方沖の地震の震度分布図



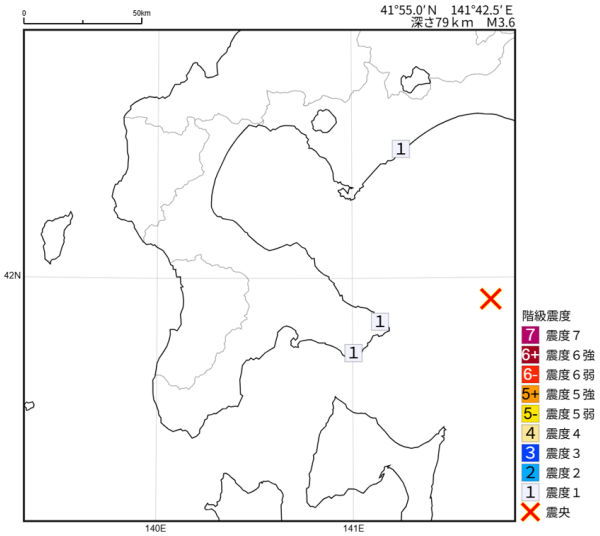
2026年10月24日　01時07分　岩手県沖の地震の震度分布図



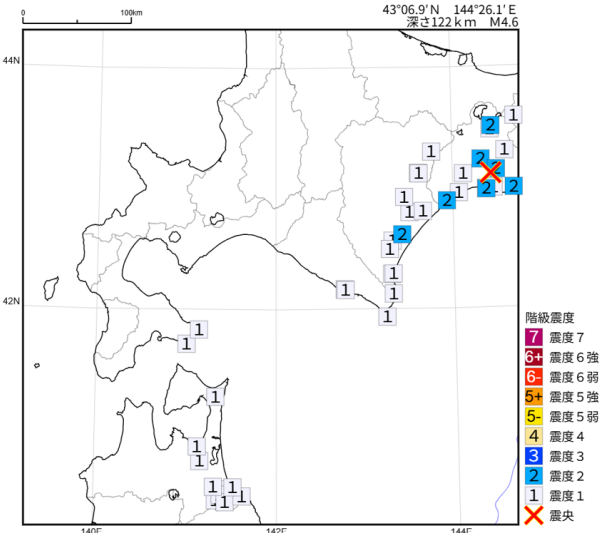
2026年10月24日　02時31分　日高地方中部の地震の震度分布図



2026年10月25日　12時23分　苫小牧沖の地震の震度分布図



2026年10月29日　08時13分　釧路地方中南部の地震の震度分布図



【防災メモ】
～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図１）。そのひずみが限界に達したとき、岩盤が急速にずれ動きます。これが地震です。

地震は、海溝沿いのプレート境界や海のプレート内部で発生する「海溝型地震」のほか、陸域の浅い所（深さ約 20km より浅い所）でも発生します。

これを「陸域の浅い地震」と呼びます（図２）。

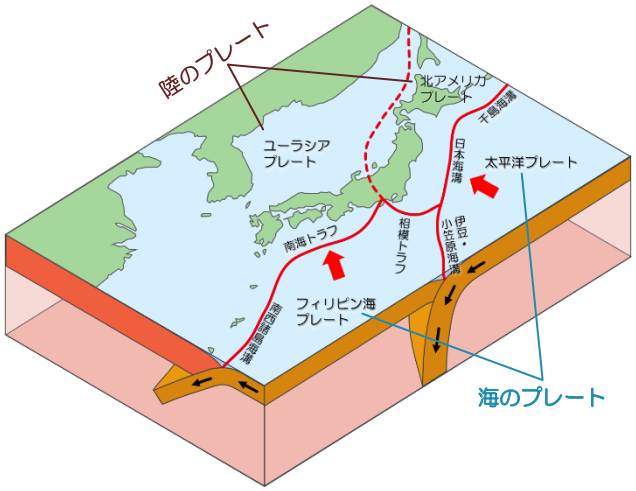


図１　日本列島周辺のプレート

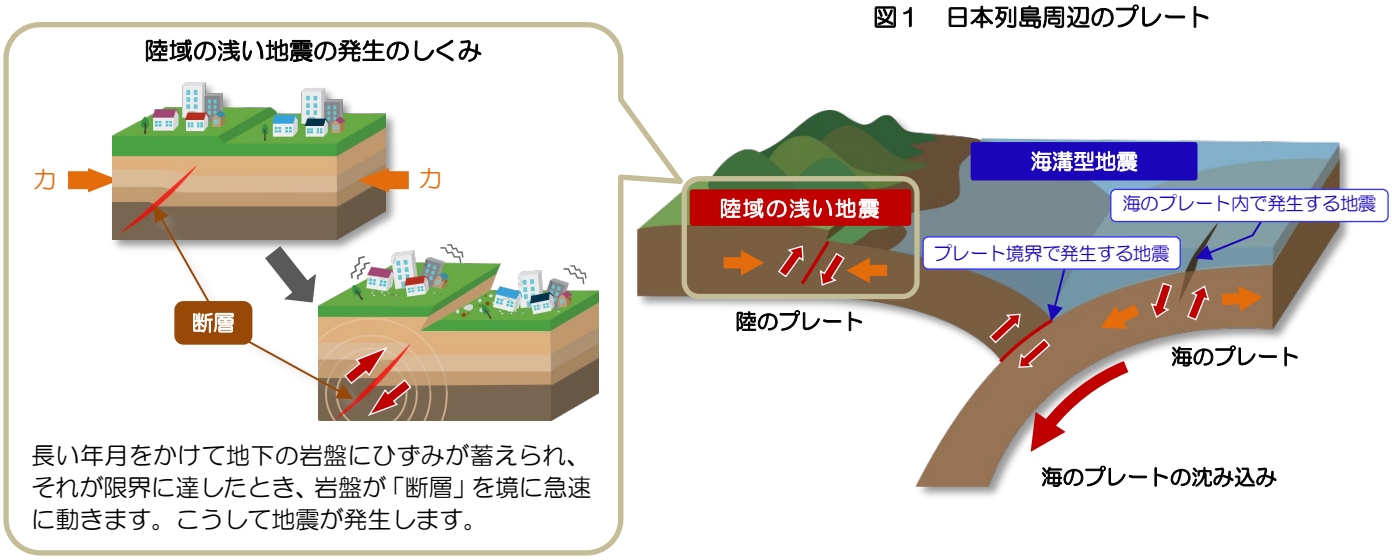


図２　日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は、海溝付近で発生する巨大地震と比べると規模が小さいことが一般的です。しかし、地震が発生する場所が浅い場合には揺れが大きくなりやすく、そこに人が住んでいると、マグニチュード５～６程度の地震であっても大きな被害をもたらすことがあります。

例えば、「平成 30 年北海道胆振東部地震」はマグニチュード 6.7 と、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」のマグニチュード 9.0 に比べて地震のエネルギーは 2800 分の１でしたが、最大震度は同じ震度７を観測しました。この強い揺れで、大規模な土砂崩れにより多くの人命が失われ、また、強い地震動や地盤の液状化による住家倒壊などの大きな被害が生じ、北海道内のブラックアウト（大規模停電）をも引き起こしました。

地震はいつ起きるかわかりません。陸域の浅い地震など震源に近い地域では、緊急地震速報が間に合わず、発表前に強い揺れに見舞われることもあります。突然の揺れに備えて日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。